

横浜の協働は・・・

市と市民が一緒になって協働のしくみをつくっている先進地横浜市では、市民の発想による提案を受けて事業を行う「協働事業提案制度モデル事業」が平成17年度から3年間行われました。その内容を市民や市職員にわかりやすく伝えるために、「協働リポーター」（市民7人市職員6人）や「検証推進会議」も結成されています。その内容から一部をまとめてお伝えします。

他にも、公益活動を助成するための「よこはま夢ファンド」など先進的なしくみがたくさんあります。興味のある方はインターネットで

横浜 協働 で検索してみてください。

『青少年による家庭育児支援・地域ネットワーク事業』

事業概要:「地域全体の子育て力」を高めることを究極の目的としている

- ①青少年・乳幼児家庭の居場所事業
青少年が乳幼児と触れ合える広場
- ②青少年の家庭育児支援ボランティア事業
①の広場を利用している乳幼児を持つ家庭に、中学生から大学生までの学生ボランティアが訪問する事業
- ③乳幼児・子ども・若者のための地域ネットワーク
実施団体・協力ボランティア・行政・近隣学校との連携づくり

市との協働の背景

『NPO 法人びーのびーの』が、地域の子育て力を底上げしていくために乳幼児と親のためのもう一つの家『おやこ広場びーのびーの』運営して行く中、「ひろばの維持」「青少年が訪問し続けるしくみ」「異なる年齢の子ども同士の関係づくり」「地域の学校や行政とのつながり」などの課題がありそれらを解決していくために協働事業に及んだ。

↓H19年度協働事業検証推進会議 第三者検証ヒアリングシートより

協働の効果

- 協働事業として行政の担当者と一緒に出向くことで、学校に事業の意義を訴え、協力してもらうことができた。
- 地域内の公立中・高・私立校・私立大学・自治会・町内会の関係者を招いての「運営連絡協議会」は、事業にとっては多様な立場の人々との意見交換の場となり、地域にとっては互いの活動を知る機会となった。
- 地域に知れたことで団体と学校の関係が密になった。例えば文化祭でのプロモーション実施や、ボランティア単位認定、職業体験の受け入れ、家庭科の授業で話をするなど。

事業を終えて

- 学生の家庭派遣を先端的すぎるからだめだとしてしまわず、拠点での学生の子育てボランティア事業を追加して受益者・協力者を増やし、すそ野を広げているところが実施者の知恵。
- 受け入れ家庭や学生ボランティアの満足度、価値観の変化といった団体独自の質的指標を行政も評価している。評価に対する考え方の共有も重要。

横浜市 協働のまちづくり 市民会議



第15回

☆日 時☆

平成20年7月13日（日）
13:00～17:00

☆場 所☆

山口総合支所第10・11会議室

☆テーマ☆

『条例素案づくり』^⑩

フォーラム等の意見の協議・最終案検討

☆本日のプログラム☆

- 13:00 スタート・前回の振り返り
プログラム説明
- 13:20 グループワーク
フォーラム等の意見を協議
限られた時間で、効率のよい方法をグループ内で話し合ってください
- 16:00 グループ発表
- 16:45 まとめ
- 16:55 次回について
- 17:00 終了 アンケート記入

※会議の進行状況を見て、プログラムを変更することがあります。

素案について盛いたくさんの意見を協議中

第14回の市民会議のグループワークで協議したものは、主に「住民投票」「議会」についてです。今回と次回で残りの項目を協議して、8月には最終案のパブリック・コメントを行います。



■住民投票（フォーラムでの御意見）

- 全国的に市政の重要な点については、直接住民投票が行われている。住民が直接参加する機会としてどのように協議されたのか？
- 市民活動にも属していない市民が市に対して対等な立場で意思表示するのは住民投票くらいしか方法がないのでは？これから阿東町の合併や、庁舎の移転など、市全体のまちづくりに対して名もなき民の声を少しでも反映するには住民投票が一番良いのでは。

協働のまちづくりに市民に参加してもらう事が先決

アンケートやパブコメで意見が出せる

第3条で市民が発言する権利を謳っている

市民会議での協議

白か黒かの決定は対立を引き起こしこの条例の趣旨にそぐわない

今の山口市に住民投票にかける案件はない

現状でも非常設型で住民投票を行える

同じ市民・仲間というスタンスで進める協働のまちづくりの条例には必要ない



■議会について

（フォーラムでの御意見）

- 条例に議会が入っていないのはなぜ？位置付けはどう協議されたのか？
（議会が入っていないことにより、市民の方から信頼されていないような寂しい気がした。いずれ政策立案を市民と一緒に作っていくためにも市民と情報を共有したり、説明責任がある。議会も今変わろうとしている、ぜひ議会の役割、責務について入れて、市民と議会と行政がスクラムを組んで良いまちづくりをしていきたい）

この条例は自治基本条例ではない

議会との協働のイメージができない

議会の責務は地方自治法にある

自治基本条例に住民との関係をしっかり入れて

市民会議での協議

議会が要望している具体的内容が見えない

十分理解あって、応答し合える関係が理想だが、内容を詰めていく時間がない

推進委員会に議員枠を設けて十分議論しては？

意見してくれた議員さんは市民派の議員さん、なんとか理解し合いたい

「自治基本条例」ではなく市民と行政の「協働のまちづくり条例」なので議会については盛り込まない

これからの協議

フォーラムやパブリック・コメント、審議会等で91項目の意見を頂きました。これまでの市民会議であらかた共有できているものはその場で回答しています。限られた時間で進めていくためにも、これまであまり協議していなかった右の内容について重点的に協議をお願いします。

- 参加・参画の文言の整理
⇒参加・参画の使い方の基準は？
- 『協働』の定義について
⇒協働をもっと具体的にわかりやすく伝えるには？
- 市に関する条文
⇒語尾が条文にふさわしい？
- 18条（行政運営）21条（行政運営）
⇒市民参画と行政の責務の内容の整理
- 中間支援（組織・機能）について
⇒中間案の議論の中で市民会議での共有ができなかったので『協働の環境づくり』から一旦外しました。再度検討をお願いします。

- まちづくり基本条例の名称について
⇒自治基本条例と勘違いされる場合も。内容にふさわしい名称？
- 市職員の地域づくりへの参加
⇒中間案作成途中に抜け落ちた・・・
- 22条第2項の自己研鑽
⇒学問などを深く研究する自己研鑽？能力や意識を自分自身で高める自己啓発？
- その他《文書担当》からの気づき
⇒自主的・主体的・自主性・自立性・自発性のそれぞれの語句選択の理由は？
⇒パブリック・コメントの説明を条文に
⇒24条（情報の提供）と山口市情報公開条例との整合性